

第11回 心理検査講習会

開催日時

2019年7月14日(日) 13:00~17:00

受付開始

12:30~

開催場所

日本教育会館 807号室

開会挨拶

京都大学 福山秀直 13:00-13:05

第1部 講演

1. 公認心理師への期待—国家資格化がもたらすもの—

医療創生大学 林 洋一 13:05-13:50
司会 三重県立看護大学 小池 敦

2. アルツハイマー病に関する最近の話題及びCDR-Jについて

王子こころのクリニック 杉下守弘 13:55-14:45
質疑 14:45-14:55
司会 医療創成大学 林 洋一

第2部 認知症心理検査

1. ADAS-COG-Jの解説と認定試験

林 洋一、小池 敦、竹内具子、杉下守弘 15:05-16:55
司会 三重県立看護大学 小池 敦

閉会挨拶

16:55-17:00

参加方法

お問い合わせ、及び参加のお申し込みは、下記のアドレスにメールにてご連絡ください。

担当：医療創生大学教養学部 林 洋一 メールアドレス：cnstest2019@gmail.com

参加費

参加費は、下記の通りです。認知神経科学会会員の方と非会員の方、また、第2部を受講する方としない方で参加費が異なりますので、ご注意ください。また、プログラム全体に参加する場合と前半のみ・後半のみ参加される場合で費用が異なりますので、ご注意ください。なお、参加費は、当日会場にてお支払いください。資料は、当日配布いたします。

<会員>

第1部 無料 第2部 1,500円

<非会員>

第1部 1,000円 第2部 2,500円 (第1部+第2部 3,000円)

なお、会場の制約のため、第2部を受講する方を優先的に受付いたしますことをご了承ください。

1. 公認心理師への期待—国家資格化がもたらすもの—

医療創生大学教養学部 林 洋一

「公認心理師」は心理学に関する初の国家資格であり、心理学、ことに心理臨床に関わる数多くの人々の長年の夢が実現したものといえよう。病院臨床の現場で働いている人の多くは「臨床心理士」の資格を持っているが、これはあくまでも民間資格であり国家資格ではなかったからである。

しかし、国家資格の誕生を手放しで喜んでいる訳にはいかない。公認心理師に対する社会の評価は、全て、これからの先の公認心理師自身の働きにかかっているからである。それが教育領域であろうと、医療保健領域であろうと、この資格を持っている人が当該分野で「役立つ人材」として他分野の人々や管理監督者から認められなければ意味がない。さらにこの資格は心理臨床の専門家として働くためのいわば「基礎資格」に過ぎず、スペシャリストであることを意味するわけではない。

つまり、公認心理師会等で継続的な研修機会を設けること、さらに将来的には「専門医」制度に類似した「専門公認心理師」制度を作ることが必要になるのではないだろうか。たとえば教育領域のスクールカウンセラーに必要な知識・技術と、医療保健領域に必要な知識・技術に共通点はあるが、全く同じではないからである。この事情は、司法領域でも、産業領域でも、さらには福祉領域でも同じである。

公認心理師資格の誕生は、心理臨床系の国家資格への第一歩であり最終ゴールではない。この資格をよりよいものにしていくためには、公認心理師養成機関連盟や公認心理師会、そして公認心理師本人の努力だけでなく、厚生労働省・文部科学省のバックアップ、さらに公認心理師が働く様々な職域の学会からの支援が不可欠である。この意味からも、認知神経科学会の果たす役割は大きいのではないかと考えている。

2. アルツハイマー病に関する最近の話題及びCDR-Jについて

王子こころのクリニック 杉下守弘

アルツハイマー病に関する最近の話題

アルツハイマー病に関する最近の大きな話題としては2つを上げることが出来るであろう。一つは2019年3月21日、アルツハイマー病治療薬「アデュカヌマブ」(aducanumab)を共同開発していたエーザイと米バイオジェンが「アデュカヌマブ」の後期臨床試験を打ち切るという発表である。独立データ監視委員会(DMC)が治験での主要評価項目達成の可能性は低いと判断したため後期臨床試験を打ち切ったとのことである(ロイター)。なお、このアルツハイマー病治療の悲観的な一報に対し、黒尾誠教授の老化抑制遺伝子(klotho)をアルツハイマー病治療に適用したDuval教授の画期的な成果も報じられている。

もう一つの話は4月30日にBrainに発表されたNelson PTらによる論文(Limbic-predominant age-related TDP-43 encephalopathy)である。これまでにアルツハイマー病と診断されていた人の中には、実は新たに発見された種類の認知症だった人が多く含まれているという論文である。ある専門家は、近年で最も重要な認知症に絡む発見だと話している。LATE(Limbic-predominant age-related TDP-43 encephalopathy、大脳辺縁系優位型老年期TDP-43脳症)と呼ばれるこの症状は、アルツハイマー病と似ているが、異なる病気だとい

う。新たな認知症が特定されたことで、これまで認知症の治療方法が確立してこなかった理由が明らかになるかもしれない。

CDR-J について

以上に述べた重要な研究でどのような心理検査が使用されているか検討してみると、我々がどのような心理検査を使ったらよいのかという問題に示唆を与えてくれる。実際にどのような検査が使われているか検討すると、MMSE と CDR が多い。MMSE については何回か論じてきたので、今回は CDR の日本版 CDR-J の現状について論ずる予定である。

第 2 部 認知症心理検査

ADAS-COG-J の解説と認定試験

林 洋一、小池 敦、竹内具子、杉下守弘

認知症患者に薬物をはじめ種々の治療を行ったとき、その効果を測定する目的で各種の心理検査が用いられている。そのような検査の中で世界的に広く使用されているものの一つが、ADAS-COG である。

一般に心理検査を実施するためには、検査者がマニュアルに従って正しく検査を行い、その結果を正確に解釈する必要がある。わが国でも ADAS-COG の検査者は、研究によっては「資格認定試験」に合格することが義務づけられている。本講習会では、米国と同じ形式の試験問題を用いて資格認定を行う。なお、試験それ自体は比較的平易である。

この講習会も、今年で 11 回目を迎えた。今年も第 10 回同様 ADAS-COG の改訂新版を用いて解説と認定試験を行うことにする。したがって、以前に旧版で本講習会を受講された方も、ぜひ、再度講習を受けていただきたい。改訂は、内容の変更だけではなく、前回のバージョンでは一体になっていた検査問題とマニュアルを分離し、判定基準を見直している。また、検査マニュアルはカラー化され、より見やすくなるように工夫されている。また、昨年マニュアルの字句を一部修正した。

「ADAS-COG-J の認定」講習会の参加資格について

ADAS-COG-J の認定講習会を受講できるのは、医師、公認心理師、心理士（心理系大学学部卒業者）、作業療法士、言語聴覚士とします。その他の職種では、認定心理士の受験資格を有する方を対象とします。

（講習会参加者に一定の資格制限を設けているのは、原著者の意向によるものです。その旨、どうぞご了承ください。なお、ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

担当： 医療創生大学教養学部 林 洋一 講習会専用メールアドレス：cnstest2019@gmail.com)